

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8-2023.7)

2021 年度第 3 回理事会 議事録



1. 日時

2022 年 1 月 30 日(日) 16:00~19:00

2. 場所

国際文献社会議室および web 会議(zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事:20 名

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

理事:鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、鈴木孝明、須田憲治、
土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、三浦大、三谷義英、山岸正明、瀧間浄宏、
深澤隆治、城戸佐知子(中途退席)

監事:河田政明、富田英、市田路子

幹事:落合由恵、早瀬康信、水野芳子、武田充人

第 57 回学術集会会長:白石公

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として小野博理事、笠原真悟理事が選任された。また、本理事会は web 会議を併用するため、議長が、出席者の発言が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時適格な意見表明が互いにできることを確認し、議事に入った。

6. 学術集会について

1. 第 57 回学術集会報告(白石公会長)

白石公会長より第 57 回学術集会について報告があった。総参加者数 1749 名、現地参加数 391 名

- ・コロナの影響で共催セミナーの収入が 2/3 程度と少なかった。
- ・国際小児心臓肺移植シンポジウム両学会参加 298 名分の収入分については折半することで合意した。
- ・JCK3 カ国フォーラムは発表者込みで 60-70 名とやや少なかった。今後は、日本およびアジア向けに JSPCCS 主催で英語ウェビナーを積極的に開催し、若手の業績アップとともにアジアでのイニシアティブを遂行すべきと考える。
- ・第 57 回アンケート結果についての総評

英語セッションの導入については、セッションにより分けるべきとの意見が多かった

ハイブリッド開催のあり方 現地会場の部屋を必要分用意していたが経費的に厳しくキャンセルせざるを得なかった。

オンデマンドの要望も強かった。

アクセス数の結果では、招請講演、シンポやパネルの視聴者が少なく一般演題が多かった。今後は若手に興味を持ってもらえる企画を考える必要がある。

2. 第 58 回学術集会準備状況報告(土井庄三郎会長)

第 57 回学術集会会長の白石先生の御意見により、シンポジウム・パネルなどベテランの先生の講演は英語スライド、一般演題は日本語スライドとすることを基本路線として検討を進めていきたい。

現地開催を主体にしたい。リモートとのハイブリッドに関しても考慮しており、シンポ・パネルや特別・教育講演などはオンデマンド配信も考えている。ライブ配信も併用すると費用がとてかかるので収入との兼ね合いになる。若手に方向性を示す教育講演を考えている。参加費については原則的には従来を踏襲することで考えており、支出面で様々な試算をしている。企業協賛については苦戦しており、坂本副理事長からも御支援の話を頂いたので、早いうちに理事の先生方にご協力を頂くこととしたい。

3. 第 59 回学術集会準備状況報告(鈴木孝明会長)

現地開催+Web で検討している。現地参加者へのメリットに配慮しつつ Web も不可避であろう。

費用的にもオンデマンド、ライブ配信については限定的になっていくものと思われる。

コメント

・胎児心臓病学会を予定しているが、協賛を集めることが大変になってきている。今後は抄録作成などの事務的な業務は学会事務局(国際文献社)が継続的に行うシステムなどを構築してコンベンション側の予算(支出)を減らす、または大きなコンベンションではなく地域の小さなコンベンションを利用するなどの工夫も必要になってくるのではないか(瀧間理事)。

7. 前回の議事録の確認

2021 年度第 2 回理事会議事録の確認が行われた。

8. 審議事項:

第 1 号議案:課題研究委員会規約改定について(土井理事)

提案内容 :課題研究委員会設置規則の改訂案について承認を得たい。

課題 A については学術委員任期終了後も担当者が課題終了まで責任をもって担当する。経費補助の支給開始は総会承認後から 9 月 1 日までの間に行うこととする。

議決結果 :全員一致で承認された。

第 2 号議案:課題研究委員会自己評価表について(土井理事)

提案内容 :課題研究会研究者自己評価表の採用について承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

第 3 号議案:高尾賞の応募について(土井理事)

提案内容 :はじめに自薦または他薦による高尾賞候補者を応募し、応募者がある場合には顕彰委員および顕彰委員会が指名する選考委員を合わせた高尾賞選考委員会で現行通り審議を行う。応募者がいない場合には、理事の先生方に候補者を推挙いただき、理事の先生から候補者に自薦を促していただく、あるいは他薦をしていただいて

候補者を決定したのち、高尾賞選考委員会で審議を行う。理事の先生方から推挙がない場合にはその年度の高尾賞該当者はなしとする。なお、業績評価期間を「5年間」は短いので「10年間」にしたい。

議決結果 :賛成多数で承認された。

コメント(大内理事、富田監事、豊野理事)

- ・高尾賞の基準について確認
- ・外科系からの受賞者が少ない(過去1名)ことにも工夫が必要
- ・規約改訂の時期については学術委員会で考慮

第4号議案:学術集会のアジアからの視聴者、討論者としての参加促進(三谷理事)

提案内容 : Hybrid 開催が予定されるならば、JSPCCS 年次学術集会へのアジアからの視聴者、討論者としての参加促進により、アジアとの学術・人材交流、英文誌への投稿促進、年次集会の AHA, AEPC 等の英語セッションの活性化を促すものと思われ、提案に承認を頂きたい。

2022 年の会は、スケジュールもあり困難であり、2023 年以降について前向きに検討する。また、年次学術集会以外での開催もあり得るので、そちらについて、前向きに検討する。

議決結果 :賛成多数で承認された。

コメント

- ・第 58 回学術集会には間に合わないと思うが軌道に乗れば将来的にオンデマンド等の英語コンテンツを学術集会からアジア圏へ発信していくことも提案される。(土井理事)
- ・第 59 回はアジア小児心臓外科学会も JSPCCS 学術集会に併せて行われる予定。Web であればアジアからの参加も今後は可能と思われる。(鈴木理事)
- ・コンテンツや日本のガイドラインの海外発信は当学会の知名度を上げ、当学会英文誌への投稿を促す機会にもなる。(山岸理事長、坂本副理事長、土井理事)

第5号議案:第58回学術集会の非会員シンポジストの旅費、宿泊費について(山岸正明理事)

提案内容 :シンポジスト・パネリストを非会員としても問題ないことを確認して企画を進めたが、最終的に 12 名中 7 名が非会員となった。極力、開催地の北海道から人選したが、2 名については航空運賃、宿泊費が高くなることになった。テーマに精通したシンポジスト、パネリストであるため、学会予算に旅費、宿泊費を計上していただけるようお願いしたい。なお、謝礼に関しては、学術集会がお互いに学び合う場であることを踏まえて、不要とすることを当委員会の考え方として合意した。

議決結果 :賛成多数で承認された。

コメント(山岸正明理事、土井理事、赤木理事、事務局)

- ・正規料金ではかなり高額になってしまうことが問題。パック料金は安価だがキャンセル料が発生する。事前予約できるのであればできるだけパック料金にて手配いただきたい。
- ・キャンセル料は学会が負担できる。旅費についての規定はないが、それほど高額な請求もきてはいない。
- ・非会員についての旅費宿泊費についてはある程度固定して支払う方法も一案ではないか。

第6号議案:第12期専門医試験結果について(鮎沢理事)

提案内容 :第 12 期専門医試験合格者の認定 40 名について承認を得たい。

議決結果 :賛成多数で承認された。

コメント

・基盤領域が外科専門医での受験合格者が含まれるが、専門医制度細則では「他の基本領域の専門医については専門医・修練施設等認定委員会で審査する。」とあり、9月の委員会で討議して受験可能と決議した。(鮎沢理事)

第7号議案:専門医機構への認定申請について(鮎沢理事)

提案内容 :令和3年度も日本専門医機構に、「機構認定」専門医制度としての認可申請を継続して行うことについて承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

第8号議案:指導医制度の制定と研修手帳の導入について(鮎沢理事)

提案内容 :第7号議案に伴い、早急に指導医制度の制定と、研修手帳(あるいは電子入力システム)の確立を進める(原則として小児科学会に準じた制度とする。) ことについて、承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

第9号議案:地方会委員会の設立と委員、規則類の改定について(鮎沢理事)

提案内容 :地方会委員会の設立と地方会への単位付与規定、地方会関連規則改正その他細部の策定の一任について一括承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

コメント(鮎沢理事、須田理事)

地方会委員会を専門医担当委員会内に設置し、更新、単位認定の審議を行う。

関連規則の整備(地方会は会費制で運営し、Web開催では参加のみで終わることのないように工夫する。90分以上の時間で開催する)

機構認定専門医となった場合の単位認定のあり方なども今後議論が必要。

第10号議案:新 Associate Editor 就任について(大内理事)

提案内容 :新 Associate Editor 就任に対する邦人43名、海外10-16名について承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

第11号議案:英文雑誌の Pubmed 収載、IF 取得への取り組みについて(大内理事)

提案内容 :英文雑誌の Pubmed 収載、Impact factor(IF)取得への取り組みに対する承認を得たい。

議決結果 : (方向性に対して) 全員一致で承認された。

コメント(鮎沢理事、瀧間理事)

- ・専門医更新のポイントとしては今後の課題
- ・専門医制度委員会としては論文義務化というよりは優遇措置として考えていく。
- ・評議員更新時要件に論文を義務化する案もある。
- ・日本心エコー図学会では IF を取得するために代議員(評議員)には更新時に1本以上の心エコー図学会雑誌への論文投稿要件(共著可)を盛り込んでいる

第 12 号議案:学会と教育の連携委員会の名称について(檜垣理事)

提案内容 :名称:「学会と教育の連携委員会」として承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

コメント(檜垣理事)

社会制度エリア内に設置し、学会と教育の連携を図る目的に絞った委員会として考えている。

社会貢献、啓発などについては、社会制度エリア内に、担当理事、委員長、副委員長で構成する合同委員会「社会貢献委員会」を設けて対応する。

第 13 号議案:学校と教育の連携委員会の人選について(檜垣理事)

提案内容 :「学会と教育の連携委員会」の新委員 4 名について承認を得たい。

議決結果 :全員一致で承認された。

(社会制度エリアから檜垣理事より情報共有として以下事案の説明あり)

日本小児保健学会から乳幼児健診診療マニュアルの改訂についてのご意見依頼について

心雑音の項目の除外が提案されたが、心臓聴診の必要性を残すことを明記していただいた。

体重増加不良、チアノーゼ、脈触知不良について項目追加の提案があった。社会制度エリアで再検討する。

米国では上下肢 SpO₂ 測定が先天性心疾患のスクリーニングとして、2018 年度から義務付けられている。

第 14 号議案:小児用デクスラゾキサンの適応外使用要望書について(三浦理事)

提案内容 :アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の心毒性の発症抑制におけるデクスラゾキサンの適応外使用要望書の成人領域と小児領域の共同申請に関して承認を得たい。

議決結果 :賛成多数で承認された。

第 15 号議案:学術集会における倫理講習会の実施について(瀧間理事)

提案内容 :倫理講習会を本学会の学術集会に組み込む。

議決結果 :全員一致で承認された。

第 16 号議案:倫理講習会の参加を専門医申請の要件とすることについて(瀧間理事)

提案内容 :倫理講習会受講を専門医資格申請の申請要件とする。

議決結果 :全員一致で承認された。

コメント

・e-learning での受講も他の単位認定講習に準じて考慮される(瀧間理事)。

第 17 号議案:第 61 回学術集会会長・理事会推薦について(山岸理事長)

提案内容 :2025 年学術集会会長については三谷理事を推薦としたい。

議決結果 :全員一致で承認

コメント

・今のところ三重での現地開催を予定している(三谷理事)。

9. 報告事項:

・理事長報告

1.持ち回り理事会報告

・(1月)日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク設立に関する賛同について承認され、準備委員会委員として移植委員会の進藤考洋副委員長を推薦した。

2.要望書等提出状況

・心房中隔欠損閉鎖栓の適応追加に係る要望書(12月・日循他合同・厚労省とPMDA)

3.その他

・優性遺伝と劣性遺伝に代わる推奨用語について(日本医学会)

「優性遺伝」「劣性遺伝」の推奨用語は、それぞれ「顕性遺伝」「潜性遺伝」とする。

10. 各エリアの事業内容・計画

学術エリア・渉外エリア・次世代エリア・働き方改革委員会・専門医制度エリア・学会誌エリア・社会制度エリア・保険診療/臨床試験エリア・医療安全・倫理エリア における事業内容・計画の確認

特記事項

・渉外エリア(三谷理事):

Reschedule the original program of the joint session at AHA 2021 to that in a webinar Feb, 2022.

テーマ:Artificial Intelligence and 3D Imaging in Pediatric Cardiology のご案内について報告があった。

・次世代エリア(山岸正明理事):

JTCVS に提言の論文を投稿中

第 58 回学術集会までに地域の状況調査を行う予定

・臨床試験委員会(三浦理事):

治験促進プロジェクトの事務局の中根様が引退を予定しているため、後任を探している。現在進捗中の小児治験は、数年後に保険適用を取得すれば、学術集会の企画・運営にも寄与することが期待される。

・働き方改革委員会(岩本理事):

医師の時間外労働時間と働き方改革関連法についての WEB アンケート調査を 2 月に実施予定。

大学病院における働き方改革の問題点と関連して基本の時間給についても(任意で)質問を入れた。

第 58 回学術集会委員会セッションで報告し、「医師の 2024 年問題」の対策についても議論したい。

多くの医師にアンケート協力をお願いしたい。

・日本循環器学会専門医(専門医機構認定)に関連する重要な情報共有(土井理事):

日本循環器学会専門医が機構認定で来年度 4 月から走り出そうとしている。昨年 11 月に日本専門医機構がサブスペ領域の整備基準の審査結果を示し、「名称を「循環器内科専門医」とすること」「統一した医師像、カリキュラム、認定方法が必須であることから、一階(基本領域)が「内科」のみとすること」について 2022 年 1 月に突然に日本循環

器学会からメールで通達された。日本循環器学会としては機構認定後でも従来の学会認定のように外科、小児科からも循環器専門医を認定できるようにしていきたいが、来年度4月からのスタートを考えると現状ではやむを得ない。良い方向に考えると、循環器内科専門医になる道が閉ざされたことで、むしろ小児科専門医のサブスペとして小児循環器専門医を機構に認定してもらいやすくなるとも考えられる。不整脈関連のデバイス使用は現在専門医であることを基準にしていることから、今後はこれらの保険診療面での基準を専門医という枠では無く、別の方向からアプローチしていく必要があるかもしれない。

・重症心不全ネットワーク窓口について(山岸理事長、鈴木理事、笠原理事)

重症心不全の患者さんから実名で理事長宛に直接相談があった。重症心不全ネットワーク窓口についてももう少し学会員に周知する必要がある。まずは現在のホームページの窓口の文言を刷新することから始める。そのために移植委員会にメール審議を行う。

・循環器病対策推進計画について(三谷理事)

循環器病対策推進基本計画に基づき、循環器病総合支援センターを都道府県に設置する動きが進んでいるが、胎児期・乳幼児期から学童、成人期への切れ目ない医療・支援、学校検診、移行医療支援などの文言もあり、厚労省循環器病対策推進協議会にも小児科から積極的に連絡をとってほしい。

・未来予想図エリア(山岸理事長)

成育基本法に基づく当学会の行動目標について、四者協からの依頼があり、岩本総務理事、小野理事長補佐を中心にまとめて提出した。関連するエリアの理事に、今後の学会活動の参考にしていただくように、後日配布を予定する。

・広報委員会 (山岸理事長)

電子メール配信(学会ニュースメール)に関する規定を整備した。

・理事会カレンダーについての説明(山岸理事長)

懸案だった学会・理事会・委員会資料の保管および次世代への引き継ぎについて、理事会・委員会カレンダーを作成した。スプレッドシートに議案、議事、資料を入れたフォルダを登録していく形で引き継ぎをスムーズにしていきたい。各エリア副担当理事の業務として、担当エリア内の委員会について、本システムを用いた資料保管をお願いしたい。これは経費のかからないシステムとして構築したので、まず理事会で共有して、将来的にはブラッシュアップしていきたい。

・小児デバイスに関する検討会について(坂本副理事長)

3年間のAMED研究(日本医療研究開発機構 医薬品等規制緩和・評価研究事業「小児用医療機器の日米同時開発に係る課題抽出等に関する研究」)が最終年で報告書を3月に提出する段階になった。PMDA から、報告書の中で“小児用デバイスの開発、導入を、患者のためという視点で小児領域医師が本当に切望していること、小児循環器学会・JCIC が本気で後押ししているということを積極的に表にださないと、国レベルでは受け入れられない。今回の報告書で進まない逆で遅れる可能性もありうる”と指摘され、報告書を積極的な文章に変更しているところであ

る。今度の北海道の小児循環器学会でも“小児用デバイスに関する検討・促進セッション”を作らないといけないと思っている。理事会の中で持ち回りの情報共有をしていきたい。

・学会の理念について（山岸理事長）

未来予想図委員会で学会の理念について作成中である。たたき台を作成して、今後パブリックコメントを募集したい。

11. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。